

製品名: APPL1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07058**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	80kDa

抗原情報

遺伝子名	APPL1
別名	APPL1; APPL; DIP13A; KIAA1428; DCC-interacting protein 13-alpha; Dip13-alpha; Adapter protein containing PH domain; PTB domain and leucine zipper motif 1
遺伝子 ID	26060.0
SwissProt ID	Q9UKG1
免疫原	抗血清はヒト APPL1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 121-170

背景

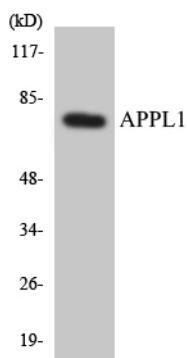
アダプタータンパク質、PH ドメインおよびロイシンジッパー 1 と相互作用するリン酸化チロシン (APPL1) ホモサピエンス この遺伝

子によってコードされるタンパク質は、細胞増殖の調節、およびアディポネクチンシグナル伝達経路とインスリンシグナル伝達経路間のクロストークに関与することが示されている。コードされるタンパク質は、RAB5A、DCC、AKT2、PIK3CA、アディポネクチン受容体、NuRD/MeCP1 複合体タンパク質など、多くのタンパク質と結合する。このタンパク質はエンドソーム膜に結合して存在するが、EGF によって放出され、核へ移行する。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、ドメイン：N 末端ドメイン（残基 1~319）または C 末端領域（残基 273~709）の過剰発現は、アポトーシス促進効果を有する。機能：初期エンドソーム区画からの細胞外シグナルに対する細胞増殖の調節に必須。Rab5 を核シグナル伝達に結び付ける。PTM：DNA 損傷時にリン酸化される（おそらく ATM または ATR による）。類似性：PH ドメインを 1 つ含む。類似性：PID ドメインを 1 つ含む。細胞内局在：初期エンドソーム膜結合型かつ核内。EGF のインターナリゼーション後、エンドソーム膜から遊離し、核に移行する。サブユニット：N 末端ドメインを介して RAB5A/Rab5 に結合。この相互作用は、エンドソーム膜へのリクルートメントと細胞増殖における役割に不可欠である。DCC および不活性型 AKT2 の触媒ドメインに PID ドメインを介して結合する。PIK3CA および NuRD/MeCP1 複合体のサブユニットに結合する。組織特異性：心臓、卵巣、膵臓、骨格筋に高濃度で存在する。

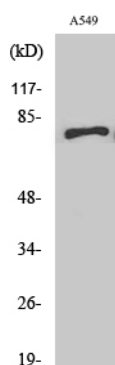
研究分野

がんの経路;大腸がん;

画像データ



APPL1 抗体を使用した K562 細胞の溶解物のウェスタン ブロット分析。



APPL1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析